

愛について語るときに私の語ること

私がお気に入りの場所は3階の西側、窓辺の席だ。実験のレポートを書き終えてぼんやりとしていた。ロールカーテンの隙間から入る夕方の光は、机の上の『元素追想』の頁を淡く透かしている。窓の外には、カシオペアの丘で見た空のオレンジと青が薄く広がっていた。

ノートには、「意味・問い・選択の科学」の文字が丸囲みされたペン書きの図がある。そばの付箋には、女のいない男たちとだけ雑に書かれていて、思わず笑みが漏れた。密やかな結晶のように記憶の表面がきらめき、図書館の静けさが時間をゆっくりと伸ばす。

私はふと、アンドロイドは電気羊の夢を見るかという遠い問いを思い出し、それがなぜか、「わたしを離さないで」という囁きに繋がるのを感じた。パブリカ色の鮮やかな断片が心の奥で弾け、記憶に星ひびの亀裂

- 『愛について語るときに我々の語ること』 レイモンド・カーヴァー著、村上春樹訳（中央公論新社 2006）
愛は非言語的な事実なのか、短編集・他にも多くの作品が村上春樹によって翻訳（原題：What We Talk About When We Talk About Love）
- 『周期律：元素追想』 ブリーモ・レーヴィ著、竹山博英訳（工作舎 1992）
ユダヤ系イタリア人でであり化学者の著者が、アウシュヴィッツでの過酷な日々、人間の感情を元素に巧みに結びつけた名著、ハンナ・アーレントとセットで論じられることもある（原題：The Periodic Table; Il sistema periodico）
- 『カシオペアの丘で』 重松清著（講談社 2007）
過去に向き合う大人の愛と赦しの物語、長編小説
- 『選択の科学：コロンビア大学ビジネススクール特別講義』 シーナ・アイエンガー著、櫻井祐子訳（文藝春秋 2010）
「愛の選択肢」は多ければ良いわけではない（原題：The Art of Choosing）
- 『女のいない男たち』 村上春樹著（文藝春秋 2014）
愛は喪失によって証明されるか、短編集
- 『密やかな結晶』 小川洋子著（講談社 2020）
他者と記憶を分かち合うことが愛の作業のひとつ、長編小説
- 『アンドロイドは電気羊の夢を見るか?』 フィリップ・K・ディック著、浅倉久志訳（早川書房 1977）
愛や命の尊さを学んだアンドロイドと共感する心を持たない人間、長編小説（原題：Do Androids Dream of Electric Sheep?）
- 『わたしを離さないで』 カズオ・イシグロ著、土屋政雄訳（早川書房 2006）
二人が本当に愛し合っていることを証明する必要がある近未来が舞台、長編小説、ノーベル文学賞作家（原題：Never Let Me Go）
- 『パブリカ』 筒井康隆著（中央公論社 1993）
他者との境界を越え、相手のすべてを受け入れる究極の愛の話、長編小説
- 『愛すること』 エーリッヒ・フロム著、鈴木晶訳（紀伊國屋書店 1991）
タイトル通り、不朽の名作（原題：The Art of Loving）



立教大学副総長
図書館長・理学部教授
箕浦 真生
Minoura Mao

が入る。ページを静かにめくる音が柔らかく周囲に広がり、私はペンを置いて椅子の背にもたれ、目を閉じて思考を追いかけた。問いは連鎖し、言葉を並べ直すたびに意味が少し揺れる―それは愛することの周縁にある言葉だ。散らばる言葉の断片は次第に一つの系としてまとまり始める。私の中で、小さな実験が進んでいるような感覚が、いつの間にか想いの方向を決めているように感じた。

外に出ると、街灯と教室の窓の明かりが鈴懸の並木を淡く浮かび上げらせ、心地よい風が吹いていた。断片は切り離せないまま連なり、私の問いは消えないままである。しかしその状態自体が、小さな行動の兆しを感じさせるのに十分であった。

Information



もっと便利に！ 図書館の新たなサービス・利用拡大のお知らせ

① 山手線沿線私立大学図書館コンソーシアムに「上智大学」が新規加盟

青山学院、学習院、國學院、専修、東洋、法政、明治、明治学院、立教が加盟する「山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム」に、新たに**上智大学**が加わりました。2026年4月1日より、加盟10大学の図書館にて相互利用が開始されています。本学の学生証や教職員証などを提示することで、各大学図書館への入館・閲覧のほか、図書の貸出サービスもご利用いただけます（※大学により利用条件が異なります。また利用除外期間あり）。他大学の充実した蔵書に触れる絶好の機会です。利用条件などの詳細は以下のQRコードからご確認ください。



② 洋書電子書籍パッケージ「ProQuest Academic Complete」を導入

立教大学図書館では、世界最大級の洋書電子書籍パッケージ「**ProQuest Academic Complete**」を新たに導入し、2026年4月より正式にサービスを開始いたしました。人文社会科学から自然科学、医療まで、多分野にわたる膨大な数の学術的な洋書電子書籍へアクセスが可能となります。PCやスマートフォンからいつでもどこでも閲覧できるため、授業の課題や研究・論文執筆、語学学習など様々な場面で大いに役立ちます。利用方法の詳細は、以下のQRコードから図書館Webサイトをご覧ください。



Your Library 第62号（通号121）発行日 2026年9月21日

編集 野原 克仁（図書館副館長）
発行人 箕浦 真生（図書館長）
発行 立教大学図書館

https://library.rikkyo.ac.jp/
連絡先 TEL 03-3985-2628
印刷 立教プリンティングステーション



YourLibrary

Rikkyo Library

No.62

2026.09.21

ISSN 1883-1303

立教大学図書館だより



図書館で環境問題を考える 環境学部開設記念号



イメージ画像（AIにより生成）

池袋キャンパス19号館（2026年3月竣工）



読書ナビ

箕浦 真生 教授

Minoura Mao

立教大学副総長
図書館長
理学部教授



図書館で環境問題を考える

あなたの学びと環境問題は、つながっている。

——環境学部誕生をきっかけに考える、立教生の未来



環境学部教員が
全学部生におススメ!

未来を拓く28冊

本号発刊に先駆けて、池袋図書館にて環境学部開設記念展示『RIKKYO Green ～立教から始まる環境学の新しい風～』を開催しました。本号では、紹介された28冊をご紹介します。

9.コミュニティと共生する地熱利用

諏訪亜紀・柴田裕希・村山武彦 編著／学芸出版社 2018



世界でもトップクラスに豊富な地熱資源。皆さんもきっと大好きな温泉との共生を考えます。

柴田 裕希
(環境政策)



17.調査されるという迷惑 増補版

安溪遊地・宮本常一／みずのわ出版 2024



フィールドに出る前に必読の書。文化人類学の初学者向けとしてだけでなく、理系のフィールドワーカー、さらには地域づくりの現場などで広く読まれてきました。

大久保 奈弥
(生物学)



1. ポッコちゃん

星新一／新潮文庫 2012



星新一のショート・ショートには環境問題を扱ったものが含まれています。驚くことに今から50年以上も前に書かれた作品です。

遠藤 崇浩
(環境政策学)



10.リベラルアーツと自然科学

石井洋二郎 編／水声社 2023



小林 潤司
(環境化学)



18.害虫の誕生

瀬戸口明久／ちくま学芸文庫 2025



滝口 直樹
(環境法、環境行政)



19.里山資本主義

藻谷浩介・NHK広島取材班／KADOKAWA 2013

18・「害虫」との向き合い方は、生物と私たち、化学物質と私たち、さらには科学と環境との関係について、様々考えさせてくれます。19・「世の中の先端は、もはや田舎の方が走っている」自然資源を生かした経済的営みの現場を取材した一冊。

2. 基礎からわかる環境化学

庄司良・下ヶ橋雅樹／森北出版 2018



わかりやすい説明で書かれた入門書です。環境化学をはじめて学ぶ方におすすめです。

下ヶ橋 雅樹
(環境化学工学)



12.サステナビリティ・ランジションと人づくり

森朋子・松浦正浩・田崎智宏 編著／筑波書房 2022



持続可能な社会を創る人って、どんな人?どうやって育成するの?そんな答えが見つかるかも。

森 朋子
(廃棄物工学)



20.公害スタディーズ

安藤聡彦・林美帆・丹野春香 編著／ころから 2021



二ノ宮リム さち
(環境教育学)



21.地域から学ぶ・世界を創る

二ノ宮リムさち ほか 編著／学文社 2024

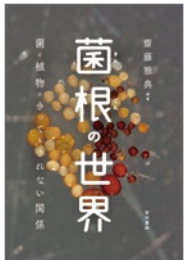
20・次世代へ、未来へ、「公害」の経験と教訓を語り継ぐ。
21・持続可能な地域と世界を創る仲間として、ともに一歩を踏み出すためのガイド。



展示期間:2026年7月1日～31日

3. 菌根の世界

齋藤雅典／築地書館 2020



宮田 佳奈
(環境生物学)



4. もっと菌根の世界

齋藤雅典／築地書館 2023

3・その辺の植物の根にも、気づかないけど沢山いますよ!植物を助けてくれる菌根菌のお話です。
4・顕微鏡で見た胞子はキラキラで土の中の宝石みたい!近年農業利用にも大注目の菌根菌です。



5. 森林飽和 6. 異常気象と人類の選択

太田猛彦／NHKブックス 2012 江守正多／角川SSC新書 2013



佐野 雅規
(環境史)

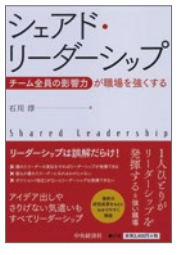


5・日本の森林利用の歴史を紐解き、現在の森林環境について考えてみましょう。
6・温暖化の科学的な説明だけでなく、温暖化対策積極派と慎重派の対立構造について(著者自身は中立な立場で)切り込み、温暖化政策についても取り上げた一冊。



14.シェアド・リーダーシップ

石川淳／中央経済社 2016



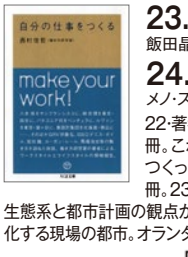
立教大学や環境学部でどのようなリーダーシップが求められているのかを理解するのに適切な一冊。

石川 淳
(リーダーシップ論)



22.自分の仕事をつくる

西村佳哲／ちくま文庫 2009



飯田 晶子
(環境デザイン学)



23.都市生態系の歴史と未来

飯田晶子ほか／朝倉書店 2020

24.都市で進化する生物たち

メノ・スヒルトハウゼン／草思社 2020

22・著者が「いい仕事」をする人を訪ね記した一冊。これから大学で学び、その後自分の仕事をつくっていくみなさんに、読んでもらいたい一冊。
23・都市における人間と自然の関係を、都市生態系と都市計画の観点から解説した一冊。
24・生物が短期間で進化する現場の都市。オランダの生態学者がその事実を提示した一冊。

25.自然再生の環境倫理

富田涼都／昭和堂 2014



富田 涼都
(環境社会学)



26.答えのない人と自然のあいだ

福永真弓 ほか 編／新泉社 2025

25・人間が自然を「再生する」ってどんなこと?! 人と自然の理を解きほぐす。
26・人新世の新しい自然保護に切り込む最新の環境社会学。



7.ジェット気流

ティム・ウーリングス／丸善出版 2025



山本 絢子
(気候力学)



8.「地球システム」を科学する

伊勢武史／ベレ出版 2013

7・ジェット気流って?どんな影響をもつ?グラントレー君の旅を通じて見ていきます。
8・「地球システム科学」の知見から、地球温暖化について科学的に解き明かします。



15.驚使い《イーグルハンター》の民族誌

相馬拓也／ナカニシヤ出版 2018



相馬 拓也
(地理学・生態人類学)



16.ユキヒョウの民俗学

相馬拓也／晃洋書房 2026

15・アルタイ山脈カザフ遊牧民によって、現在も受け継がれる、大型猛禽類のイヌワシを用いた「騎馬鷹狩猟」についての世界で唯一のエスノグラフィ。



27.SDGsで世界を探求する

鈴木詩衣菜 編／聖学院大学出版会 2025



鈴木 詩衣菜
(国際環境法)



28.図説日本の湿地

日本湿地学会 監修／朝倉書店 2017

27・SDGsを政治、経済、法学、教育、ボランティア、福祉、ジェンダー、音楽、日本文学から読み解く一冊。SDGsをもう少し専門的に知りたい方へ。
28・湿地が驚くほど多分野と関わりがあることをサクッと知ることができる1冊です。



図書館の活用方法

QRコードから各図書のOPACデータに直接アクセス! 所蔵館・配架場所などの所蔵情報、詳細な書誌が確認できます。他キャンパス図書館からの取り寄せや、貸出し中の場合の予約も可能。さらには「類似資料」情報も。「芋づる式」に学びを深めてみてはいかがでしょうか?

なお、図書館では、図書、雑誌、データベース、電子ジャーナル、電子書籍など、多様な資料が利用できます。

詳細はこちらから▶▶▶▶▶▶▶▶
立教大学図書館Webサイト
TOPページ>探す・調べる



発行に寄せて 環境学部長からのメッセージ



▲ 環境学部長
小林 潤司 教授

図書館は、そのための知的な探究の場です。一冊の本との出会いが、新たな視点や問いを生み出すことがあります。ぜひ学部や専門の枠を超えて図書館を活用し、環境問題をはじめとする現代社会の課題について、自分自身の問いを見つけてください。

環境問題は、一つの専門分野だけで解決できる問題ではありません。気候変動、生物多様性、資源循環、環境正義など、私たちが向き合う課題には、科学的な知識だけでなく、歴史や文化、経済、法律、倫理といった多様な視点が求められます。

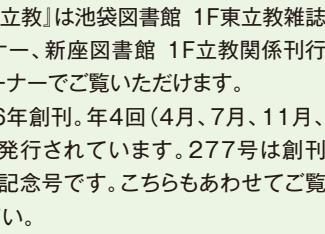
環境学部では、異なる専門分野の知見を結びつけながら、「よりよい未来をどのように選ぶのか」を考える力を育てたいと考えています。その出発点となるのが、自ら問いを立て、多様な情報に触れ、考え続けることです。

環境に配慮した立教大学新棟(池袋・新座)

池袋キャンパスで18年ぶりとなる新学部「環境学部」の開設は、大学広報誌・季刊『立教』Vol.276 (April) でも特集されました。拠点となる19号館は木造3階建て。高度な省エネ性能と太陽光発電による省エネを組み合わせることで、一次エネルギー消費量を実質75%以上削減する「Nearly ZEB」※を達成しました(同号 P18より抜粋)。一方、前年2025年4月から利用が開始された新座キャンパス9号館も、地下から汲み上げた井水(15～20℃)を用いてアルミパネル壁を冷却し、周囲の温度を下げる「井水パネル」や、地下に換気経路をつくり、地中の熱を利用して建物内の空調に活用する「クールヒートトレンチ」など、環境に配慮したエコロジカル校舎となっています。こうした省エネ対策により、従来の建物に必要なエネルギーに比べて使用するエネルギーを50%以下まで削減し、「ZEB Ready」認証※を取得しています。



▲ ※環境省
ZEB Portal



▲ 19号館1階入口に発電量をモニター表示